

令和元年度第2回浦安市児童センター運営懇談会

- 会議資料 別紙参照
- 開催日時 令和2年1月23日（木）午後6時30分～8時
- 開催場所 高洲公民館（エスレ高洲内） 2階 研修室
- 参加者
 - （委員） 手塚会長 （浦安市小中学校校長会）
 - 坂野委員 （民間有識者 浦安子ども劇場）
 - 田中委員 （民間有識者 よみきかせサークル ルフラン）
 - 小神委員 （浦安市民生委員児童委員協議会）
 - 高倉委員 （浦安市青少年相談員連絡協議会）
 - 伊藤委員 （浦安市青少年相談員連絡協議会）
 - 小泉委員 （浦安市子ども会育成連絡協議会）
 - 菊地委員 （浦安市子ども会育成連絡協議会）
 - 平林委員 （健康こども部青少年課長）
 - （事務局） 健康こども部児童センター 斉藤所長
 - 東野児童センター 大野・泉澤・海老原・奥山・吉清
 - 高洲児童センター 高梨・村松・今井・後藤
- 開式
- 児童センター所長挨拶
- 会長挨拶
- 議事
 - （1） 令和元年度前期事業報告
 - （2） 令和元年度事業計画
 - （3） その他
- 閉会

○ 開式 事務局 高梨

○ 斉藤所長挨拶

今回の事業報告では、動画を中心に報告させていただく。職員の今後の励みになるため、忌憚のないご意見とご感想をいただければと思う。今回は1月の開催となったため、資料には11月末までの利用実績を記載してあるが、事業については12月末までに実施したものを報告させていただく。

○ 会長挨拶 手塚会長

○ 議事

(1) 令和元年度前期事業報告

1 東野児童センター事業報告

- ・ こども健全育成事業 (P 8・9) について
- ・ 子育て支援事業 (P 10・11) について
- ・ 地域貢献事業 (P 12・13) について

主な事業内容の説明

① 「ベーゴマ大会」について 泉澤

あきまつりにおいて開催した。団体戦では、20勝したチームが優勝とし、途中、15勝したチームは、審判が見て強い子を一人はずすことにより、他のチームとの力量の均衡をはかった。外れる子は大人とは限らず、子どもの場合もあった。個人戦では、チームの代表者4人が争い、ベーゴマがはじき出され、きれいに勝負が決まる様子などが見られた。

② 「エコリコーダーをつくろう」について 泉澤

千葉県環境財団の方を講師に招いて開催した。飲み終わったヤクルト容器を使って、ごみにするのではなく、再利用し、環境の負荷を減らすことを理解してもらうために行った。穴はドリルを使って講師があけたが、それ以外の部分は子ども達が作成しており、ねずみをかたどるなど工夫をしていた。最後は2チームに分かれ、カッコウとメリーさんの羊を演奏して、自分で作成したエコリコーダーの出来栄えに満足している様子だった。

③ 「ドミノ大会」について 泉澤

「学校、学年の違う子どもたちの交流の場とすること」「遊びを通じて子ども同士の会話・地域を超えた新しい友達関係づくりを支援すること」を目的として実施した。途中であきらめそうな子もいたが、「まだ時間があるから頑張ろう」と声をかけると、奮起してまた一から並べる根気強さもみられ、関心させられた。スタートのボールが下に落ちていく仕掛けや、ゴールの風船が破裂して中から紙吹雪が舞う仕掛けを作り、見学している人も楽しむことができるよう工夫した。

④ 「けん玉を楽しもう」について 大野

むかし遊びの一環として、毎月1回行っている。小さい子から中学生まで参加し、名人が初心者から経験者まで、持ち方や技のこつなど、その子にあった指導をしてくれる。時には保護者の方も参加したり、懐かしい遊びを皆で楽しんでいる。

⑤ 「ペットボトルツリー」について 大野

子どもが各自自由な絵を描きペットボトルにはり、それをツリーに仕立て電飾を装飾し、点灯式を行った。点灯式では、シルバー職員のトーンチャイム演奏と一緒にクリスマスソングを歌い、観客も50名ほど来てくれた。クリスマス当日まで飾り、きらきらとしたツリーは来館者に大好評だった。1週間ごとにツリーを45度ずつ回転させ、全員のペットボトルが前面に来るように工夫した。

⑥ 「チームハッピー」について 大野

小学生から高校生、仲間と積極的に関わる中で組織的に活動し、児童センター及び地域社会の中で、ボランティアとして歌・踊り等、子ども達が自主的に練習した演目を地域に届け交流をすることを目的に設立した。今年度もUセンターまつり、福祉センターまつり等に参加し、成果を披露してくれた。クリスマス会では、学校の吹奏楽部の6年生の演奏や、2年生の歌うレット・イット・ゴーなどを披露した。

⑦ 「将棋大会」について 奥山

12月の将棋大会には市外在住の小学生も参加し、大会ならではの交流が図れた。参加した子ども達からは「違う学校に将棋の強い子がいて驚いた」「大人の先生に勝てて嬉しかった」「相手の子がまだ小学校2年生なのにとっても強くて驚いた」「今日は負けちゃったけど、もっと練習して次の時には勝ちたい」などの感想をもらった。将棋大会では将棋ができる子だけでなく、興味のある子の第一歩となるよう観戦を自由にできるよう設定している。大会を通して、また普段の遊びの中で、将棋の裾野を広げていけたらと思い事業に取り組んでいる。

⑧ 「親子サークル マシュマロクラブピーチ」について 海老原

毎週木曜日の午前中に行っている1年間の登録制親子サークルである。2歳児の親子が向き合って楽しく過ごすことだけでなく、活動の企画や準備、反省を参加者の母親が行い、親同士のかかわりにより子育て期を楽しむことも目的にしている。活動では、クリスマス会でのマラカス演奏、踊り、タコあげなどを行った。母親同士が集まり、担当職員を交えて活動内容を決めたり、活動を進行したりしていくうちに母親同士のつながりが深くなり、仲良くなっていく。これからも児童センターが母親同士をつなげる橋渡しの役目が果たせるよう、見守っていきたい。

⑨ 「クリスマス会」について 吉清

クリスマス会では、3歳児「プレスクールメロン」による「大きなカブ」の劇や、オカリナサークル「ハーモニー」さんによる演奏、チームハッピーによるトーンチャイムと歌、浦安市子ども会育成連絡協議会によるブラックシアター、サンタさんからプレゼント、けん玉大会、マジックショー、くじ引き大会を行った。クリスマス会は、

児童センターに所属するクラブなどの日頃の成果の発表とゲストによるプログラムの合作になっており、今後も子ども達の笑顔のために全力で取り組んでいきたい。

2 高洲児童センター事業報告

- ・こども健全育成事業（P19・20）について
- ・子育て支援事業（P21）について
- ・地域貢献事業（P22）について

主な事業内容の説明

① 「県民の日事業 ラグビー場で遊ぼう」について 今井

ラグビーを通してスポーツの魅力を子ども達に知ってもらうとともに、地域で活躍している方々と子ども達の交流を図ることで、地域との連携をより深めていくことを目的として実施した。シャイニングアークスに協力してもらい、高洲にある練習施設の見学とラグビー体験をさせてもらった。子ども達からは、「普段見られないものが見られて楽しかった」「これからラグビーを応援していきたい」などの感想をもらった。今回の事業をきっかけに、地域との連携・交流が図れる事業を今後も検討したい。

② 「県民の日事業 高洲児童センターの窓で絵を描こう」について 高梨

児童センターのロビーに面した窓に下絵を準備し、キットパスという画材で子ども達に色を塗ってもらった。下絵には千葉県民の日に因んで、チーバ君や、児童センターの利用カードに描かれている3つ子のキャラクターなどを描いた。

③ 「県民の日事業 サイエンスショー」について 高梨

液体窒素を使った実験をした。最初こそ怖がっていた子ども達だったが、実験が進むにつれ、身を乗り出して見ていた。幼児親子から小学生までの参加が中心だったが、わくわくドキドキの体験を楽しんでいる様子うかがえた。

④ 「ふれあい体験 赤ちゃんと遊ぼう」について 村松

高洲児童センターでも開催をとのご提案をいただいていた「ふれあい体験 赤ちゃん和遊ぼう」を小学5・6年生を対象に開催し、10名の参加があった。感想には、「生まれてきたばかりなのに、すごく力が強かったことが印象に残った」「妊婦体験はとてもおなかが重かった。妊婦さんを見たら、優しくしてあげたい」「お母さんたちの話をたくさん聞けたから分かりやすかった」などがあった。市内全域からの参加があり、また、当代島から参加したお子さんは昨年は東野児童センターで参加しており、居住地域での参加というよりも、夏休み中の予定に合わせて日程・参加場所を選んでいる様子うかがえる結果となった。

⑤ 「家族で手形アート」について 後藤

高洲児童センターでは、平日の午前中に手形アートを毎月行なっているが、土曜日、日曜日に実施し、家族での作品作りとなるようにした。7月は「ぞう」、11月は「家族の木」をモチーフにした。参加者からは、「子どもが小さいうちは手形をとる機会があ

っても、大きくなると無くなっていく」「家族でできる機会はなかなか無い」などの声が聞かれた。手形作品は家庭で行なうにはなかなか難しいものである。今、この時だけの手形が残ることで、今後、子どもの成長を感じられる機会とし、家族みんなの思い出の一コマになればと思う。

⑤ 「パパと子のわくわくランド」について 村松

高洲公民館との共催事業で、複合施設内の立地を活かし、3歳から就学前の親子を対象とし、講師によるリトミック・運動遊び、児童センターの冬のお楽しみ会への参加、児童センター職員による親子遊びのプログラムの全4回で行なった。児童センター職員による親子遊びでは、紙コップタワー作りと、クリスマスのアドベントカレンダー作りを行った。休日のひと時を子どもと過ごすことで、季節感を感じられるような機会となればうれしく思う。

◎質疑応答

会長 各センターより報告があった内容について質問はないか。

委員 将棋大会について、男の子の参加が多いように見えた。お楽しみ会は女の子の参加が多いため、男の子の参加が多い事業があるのは嬉しい。女の子の参加はあったのか。

事務局 今回は女の子の参加はなかったが、前回・前々回は2～3名の参加があった。

委員 エコリコーダーについて、作成するだけでなく、演奏するところまで取り組んだことはすごいと思った。練習時間はどれくらいあったのか。

事務局 作成後に20分程度しかとれなかったが、講師の方に用意していただいた曲を練習して、演奏できるようになった。

委員 チームハッピーについて、毎回の参加者数はどのくらいなのか。

事務局 登録制であり、15名である。

委員 同じメンバーで和気あいあいとしており、このような子ども集団が活動していることが素晴らしいと思った。

委員 子どもがその時だけ単発で参加しても充実感や達成感が感じられるような企画を多くして実施しており、素晴らしいと思う。また、音楽などこれほど質の高い作品を作り上げるのは簡単ではないと思う。先生の指導も素晴らしいのだと思う。

委員 ラグビー場で遊ぼうとふれあい体験について、これから発展していく事業だと思う。

シャイニングアークスは高洲をホームとしており、私のまわりでもファンが増えている。このような中で、児童センター主催でこのような体験をさせてもらえることがとても羨ましい。今回の事業は、チームが高洲に根付いていくためにも大

切な事業であると思う。地域の方々に対して、今回の事業を少しずつ周知していき、今後発展させていければよいと思う。

ふれあい体験について、児童センターで事業を毎年続けることで、子どもに家族内だけでなく様々なふれあいをさせたいと考えている方達に知ってもらえると思うので、ぜひ今後も続けてほしい。

会長 参加人数は問題ではなく、参加者が濃い時間を過ごすことができたと思うので、今後も続けてほしいという要望だと思う。

(2) 令和元年度事業計画

- 1 東野児童センター事業計画 (P14) 大野
- 2 高洲児童センター事業計画 (P23) 今井

◎質疑応答

会長 事業計画について質問はないか。

委員 先日実施された昔あそびについて、社会福祉協議会として私も参加させていただいた。現在、社会福祉協議会には若い方が多く、昔あそびが得意でないため、教える側として参加することは難しいと参加を遠慮した方が多くいた。子供に教える側として参加するだけでなく、子どもから教えてもらうという立場で参加できる場があると、地域との交流も広がると思うので、検討してもらいたい。

事務局 検討させていただく。

委員 中学生の利用者数が予想より多い印象を受けた。中学生はどのような事業に参加しているのか。それとも事業のほかに何かあるのか。

事務局 (高洲) 卓球をする中学生が多い。また、中学生にも人気があるような漫画を増やしたところ、中学生の滞在時間が長くなったように思う。子どもの居場所としての機能の観点から、漫画を読みに来てもらうだけでもよいと考えている。事業への参加は、現状では難しい。

(東野) 東野においても、事業への参加は、部活や塾などもあり難しい。浦教研の日に部活が休みのため、来館する中学生はいる。

委員 中学生になって引きこもりになってしまう子は救い出すことが難しい。学校に行っている子だけでなく、学校に行けない子が児童センターや公民館を利用できることが大事である。学校に行けない子を児童センター職員が把握してもらえると、その子が公民館に来ていることが確認できる。児童センターは学校に行けない子にとっても重要な位置づけであると思う。特に高洲地域はマンションが多く、子ども達の見守りがしづらい地域である。地域の居場所としてご協力をお願いしたい。

会長 漫画の充実については、以前の会議でも話が出ていた。実施した効果をこれから

見ていく必要があると思う。

委員 夏休みの将棋大会など、他の学校の子と接したり、新しい友達を作ることができる場となるのが素晴らしい。今後も様々な子が遊べる場にしてもらいたいと思う。

委員 東野の事業の動画の中に、自分のよく知る子が参加していた。活発に遊ぶ印象ではなかったのですが、活発な側面があることがわかって嬉しかった。東野・高洲ともに様々な事業を実施しており、特にチームハッピーについて、自分も小学生に指導したりすることが多いが、小学生をまとめることは簡単ではないので、すごいと思った。今後も児童センターがもっと活発になってもらえたらと思う。

(3) その他

事務局 今回は、動画を使いながら事業内容の報告を重視したため、利用実績の説明は割愛した。資料を見ていただき、質問等があればお願いしたい。

委員 青少年課では、青少年相談員や市民団体に協力してもらいながら、子どもの健全育成に取り組んでいる。また、これまで実施していた「放課後異年齢児交流促進事業」について、令和元年7月からは名称を「放課後子ども教室」に変更し、各学校に居場所を確保しているところである。放課後子ども教室では、低学年の利用が多く高学年の利用は多くはないが、児童センターは全学年を通して利用が多いように思う。我々も高学年の利用を促進したいと考えてはいるが、地域にいろいろな居場所があることはよいことだと思うので、連携していけたらと思う。

会長 ほかに意見はないか。意見はないようなのでこれで、議事は終了する。

○ 閉会